



7月末からクマゼミ、遅れて8月からアブラゼミがとれるようになり、8月後半にはどのセミもとれなくなった。これは3年間同じだった。どの種類のセミも成虫・幼虫ともに、とれはじめはオスが多かったけど、一週間くらいしたらメスもとれるようになったので、オスの方が羽化する時期が早いことが分かった。羽化したては鳴くのが下手なのか調べるために、つかまえたオスと羽化した翌朝のオスを鳴かしてみた。するとつかまえてきたすべての種類・すべてのオスが大きな悲鳴音を出した。一方で、羽化した翌朝のオスは、ほとんどのオスが鳴かなかった。鳴いたとしても小さな音で「グワグワ」とアヒルみたいな音を出して、鳴くのが下手だった。だから、上手く鳴くための練習期間が必要だから、オスは、メスより早く出現するのではないかと思う。

羽化の観察をしたところ、抜け殻ごと落下する失敗例が多い。そこで「セロハンテープレスキュー法」を考えた。さらに、弱っているからか羽化途中で止まってそのまま死んでしまうことがあったので、弱らせないように、採集する時になるべく手で触らないようにした。すると羽化の成功率がほぼ100%になった。

セミとりをしている時にクマゼミが産卵しているのを見つけた。おしりの先を震わせながら産卵管をもみじの枝にゆっくりさしてゆっくり抜くことを繰り返していた。公園内でほかにも20か所ぐらい産卵痕のある木を見つけた。

ミンミンゼミについて僕は二つの疑問を持っている。一つ目はミンミンゼミの分布域についてだ。図鑑には関西では低山地～山地にいると書いてあるけど、僕の住んでいる神戸市の垂水区（山地ではなく市街地）では、2022年は34匹（つかまえた全体の11.8%）、2023年は95匹（11.1%）、2024年は90匹（14.2%）とれたので、山地ではないのにたくさんいると感じた。最近、クマゼミが関東でもとれるようになってきているように、分布域が変わってきている。ミンミンゼミも関西での分布域が変わっているのかもしれないと思う。

ミンミンゼミの二つ目の疑問は、羽化場所についてだ。成虫は90匹もとれたのに、幼虫は4匹しかとれなかったから、幼虫が少なすぎる。ぼくは、どこか別の場所で成虫になってから飛来しているのか、または、同じ公園内の別の場所で羽化していたために幼虫をつかまえられなかったのではないかと考えている。